

2025(令和7)年度 高等学校入試に向けて

## 結果分析と学習のアドバイス



雲雀丘学園高等学校

目 次

■令和 6 年度 高等学校入試(A 日程)

数 学

国 語

英 語

社 会

理 科

■令和 6 年度 高等学校入試(A 日程)

# 数 学

## 令和 6(2024)年度 高校入試 A 日程分析・数学

### ■全体講評

出題形式は例年と同様です。計算力と確率、関数、平面図形、空間図形から高校での学習に必要な知識が定着しているかを問う問題を中心に構成しています。難易度は基本的な知識を確認する問題から、発展的な複合問題まで幅広く出題しました。

計算問題、文章題、確率、2次関数の問題については正答率が高く、よくできていました。一方、図形問題で苦戦している様子でした。2次関数の問題でも図形的な視点を必要とするところで正答率が落ちていました。頻出の形に対してだけでなく、見慣れない形でも、与えられた条件から図にかき出して考えていく力が大切です。

### ■出題趣旨

1. 例年通りの標準的な計算問題。
2. 基本から標準レベルの文章題。
3. 確率の標準的な問題。
4. 1次関数と2次関数の複合問題。
5. 平面図形の応用問題。
6. 立体図形の応用問題。

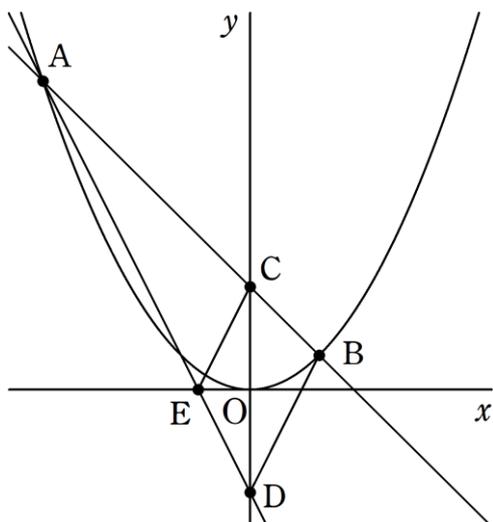
### ■対策への助言

数学の問題を解けるようになるためには、基本問題の演習を徹底し、解法の引き出しを増やしておくことが大切です。応用問題も、条件を式にして解いていくと見たことのある式が出てきて、公式や定理の利用につながります。そのときに必要なのは、教科書や問題集の例題レベルの知識です。まずは、問題集で良く出る形の問題を繰り返して解き、その次にそれを組み合わせて解く応用問題の練習をしてください。問題演習で解けない問題があったときは、とりあえず手を動かして、自分が知っている解き方で色々アプローチをしてみて、それでも分からなかったら答えを見てください。そうして解法の引き出しを増やしていけば、確実に解ける問題が増えていくはずです。

■問題分析

図のように、関数 $y = \frac{1}{4}x^2$ のグラフ上に2点A, Bがあり、 $x$ 座標はそれぞれ $-6, 2$ である。直線ABと $y$ 軸の交点をCとする。また、 $y$ 軸上の負の部分に点Dをとり、直線ADと $x$ 軸の交点をEとすると、 $BD \parallel CE$ となった。

- (1) 直線ABの式を求めよ。
- (2) 点Eの $x$ 座標を求めよ。
- (3) 点Eを通り、 $\triangle ACD$ の面積を2等分する直線の式を求めよ。



考え方と解き方

(1) 点A, Bの座標はそれぞれ $A(-6, 9)$ ,  $B(2, 1)$ だから、直線ABの方程式を $y = ax + b$ とすると、

$$\begin{cases} 9 = -6a + b \\ 1 = 2a + b \end{cases}$$

であり、これを解くと $a = -1$ ,  $b = 3$ だから、 $y = -x + 3$ である。

(2) 点A, Bの $x$ 座標がそれぞれ $-6, 2$ だから、 $AC:CB = 6:2 = 3:1$

$BD \parallel CE$ より、 $AE:ED = AC:CB = 3:1$ である。よって、点Eの $x$ 座標は、

$$(-6) \times \frac{1}{4} = -\frac{3}{2}$$

(3)  $BD \parallel CE$ より、 $\triangle ACD$ と $\triangle ABE$ の面積は等しい。よって、点Eを通り $\triangle ABE$ の面積を2等分する直線を求めればよい。線分ABの中点Mは

$\left(\frac{-6+2}{2}, \frac{9+1}{2}\right) = (-2, 5)$ だから、直線EMの方程式を求めて、 $y = -10x - 15$ となる。

■令和 6 年度 高等学校入試(A 日程)

国 語

■全体講評

大問1【小説】伊吹有喜『雲を紡ぐ』から出題。

自分の思ったことをなかなか口に出すことができなかつた高校生の美緒が、祖父との会話の中で自分自身を見つめ直し、少しずつ感情を出すことや自分の意見が言えるようになっていく場面になっている。

今回、漢字の出題傾向を変え、同じ漢字が使われているものを選ぶ形式にした。予想よりは正答率が高かったが、似たような漢字（歎と勸など）を区別する問題は正答率が低かった。それに関係するかはわからないが、「どういうことですか」の問いに対して「〇〇だから」というように対応しない解答をするものが多く見られた。丁寧な解答の作成を心がけてほしい。

大問2【評論】原研哉『大量発話時代と本の幸せについて』から出題。

情報量や情報の新鮮さで勝るインターネットや電子書籍に対し書籍は価値のある内容や個人的な思い入れを残すものとして残っていく、といったことを考えさせる文章である。

ここでは例年通りの記述式で漢字問題を出題した。こちらも予想以上の正答率であったが、「獲得」といった「けものへん」と「てへん」などの細かい部分できっちり書けていないものが見られた。漢字を書く機会は減ってきているかもしれないが、丁寧に書くことを意識してほしい。内容把握の問題では、設問をしっかりと読んで答えること。分量が多かったのか、最後の問題で白紙解答が多く見られた。早く読み、早く解くために日頃からの読書を勧める。

■出題主旨

大問1【小説】

主人公の心情の変化を押さえることが重要である。特に、前半では、自分に自信が持てない主人公が、祖父の質問に対して否定的に答える場面が続くが、スプーンに託した祖父の思いが通じて、徐々に前向きになっていく姿が描かれている。それに合わせて主人公の成長を感じ取った祖父の思いを丁寧に読み取ることができるかが、ポイントである。

特にスプーンを選ぶ場面では、「戸惑い→興味→喜び」と変化していく主人公の美緒の変化を見守る祖父の様子を表情から読み取る。祖父はずっと後ろ向きなことしか口にできなかった美緒が、直感で好きなものを選び、また言葉にできたことを強く喜んでいる。この構成を押さえなければ、正解に近づくことは難しい問題であるといえる。

大問2【評論】

SNS等の登場により、「大量発話時代」が幕を開け、大量の情報があふれる時代となった。その情報をどのように利用するのか、また、電子化が進む時代において、あえて紙の本を求める欲求の根源を、具体例とともに読み解いていくことが必要である。電子データは手に取ることができず、非常にはかなく不安定な存在であるため、本という形に具体化することでこれまで味わうことのなかった充足感を実感できるという点を押さえることが必要。また、キーワードは探せているが、組み立てた解答が説明として成立していないものも多く見られた。単に切り貼りするだけでなく、適切な表現を身につけてほしい。

## ■対策への助言

小説では、変化（成長）を主題とするものが多い。ある出来事が契機となり、その変化が起こるわけであるが、出来事と登場人物との関係と、そこから引き起こされる心情と関連を押さえることが必要である。また、直接、心情に言及していなくても、登場人物がから見た風景の変化に、登場人物の心情が投影されていたり、作者の描く風景に心情が表れている場合もあるので、丁寧な読みが必要となる。

説明的な文章（評論文）では、接続詞や、副詞等に注目したり、傍線が引かれた設問部分前後に着目することも重要だが、本文全体からその部分を捉え直すという視点も忘れてはいけない。特に、説明的な文章では、具体例をあげて、そこから導き出されるものが要点となり、それによって論理が展開されるので、具体例を軽視することは厳に避けるべきであろう。

また、語彙力等の問題については、普段の生活では見られない、聞き慣れない語句が出題されるために、正答率の低下の傾向が見られる。これらの力は、日頃から本や新聞に親しむことで身につくものであり、ニュースなどの情報にも関心を持つ必要があると思われる。

## ■問題分析

### 大問1の小説

**問六** ——線部④「汚毛のフンばかり見るのと同じことだ」とありますが、祖父が美緒に言いたかったのはどういうことだと考えられますか。解答欄に続くように、本文の言葉を使って三十五字以内で説明しなさい。（句読点、記号は字数に数えます。）

〔解説〕設問では「言いたかったのはどういうことか」と指示されている。——線部の直前に「悪いところばかりを見るのは」とあるので、ここだけで解答を作成したものが多く見られた。これだと、——線部の単純な言い換えになってしまう。この発言だけでは何が言いたいのかわからなかった美緒に、祖父が説明している部分まで目を向け、「悪い所ばかり見ていないで、自分の良い点も探してみたらどうだ」まで読み取ってほしい。

〔解答例〕美緒が自分の性分の悪い所ばかりを見てしまい、良い点を探そうとしていない（ということ。）

### 大問2の評論

**問十一** ——線部⑨「データではなく本として持ちたいという欲求は決して小さくない」のはなぜですか。本文の言葉を使って四十五字以内で説明しなさい。（句読点、記号は字数に数えます。）

〔解説〕データとしての書籍と本としての書籍の違いを説明する問題である。データについては前後より「不安定」であり「はかなく頼りない」ものであると説明されている。また、本にすることで（具体化することで）達成感や、価値観の共有による感動といったものを実感できることが本としての価値として説明されている。注意点としては紙の本に求められるもの（尊厳や風格）と、本を持ちたい欲求を混同しないように。

〔解答例〕はかなく頼りない像を、希望するかたちの本に具体化することで、充足感を得られるから。（別解）はかなく頼りない像を本にすることの充足感や、友人と共有することの感動を得られるから。

■令和 6 年度 高等学校入試(A 日程)

英 語

## ■全体講評

長文読解2題、文法・表現、英作文、リスニングなど計6題で全体正答率は70%を超えた。正確な英語の知識・理解と読解力・情報検索力の両方を必要とする問題が含まれる。長文読解では2題の合計が1500語を超えており、素早い情報処理力も求められた。大問3・4・5では基本レベルの文法・語法・表現が中心に出題され、リスニングにおいても定番の出題形式だった。

## ■問題概要

大問	項目	設問形式
1	長文読解	空所補充、整序英作文、内容把握
2	長文読解	空所補充、内容把握
3	文法・表現	日本語が提示されない英文の空所の語(句)選択
4	整序英作文	日本文が提示された整序英作文
5	英作文	指定された語を使った英作文
6	リスニング	放送される英文と質問を聴いて内容選択

## ■各項目別の出題主旨等

大問	項目	出題主旨
1	長文読解	「イギリスと日本のカレー文化」をテーマにした説明文と会話文。内容理解問題や、知識と文脈の融合問題など幅広い出題。
2	長文読解	会話文（チャット）と関連する資料から、解答に必要な情報を読み解く問題。必要な情報を正確に素早く見つけ出す力が求められる。
3	文法・表現	日本文のない短文の穴埋め選択問題。文の構造把握や意味類推をしながら、文法・表現の知識が求められる問題で、基本レベルの出題。
4	整序英作文	提示された日本文の意味を正確に捉え、指定された英語表現を使って英文を構成する力を問う問題。日本語の言い換えが必要となる。
5	英作文	提示された日本文の意味を正確に捉え、最適な表現を導き出し、正確な文法・表現を正しく表記できるかを問う問題。
6	リスニング	「文化祭で製作する映画」に関するプレゼンと質問文を聞いて選択する問題。選択肢の先読みである程度推測し、必要な情報を聴き取る問題。

## ■問題分析

### 【1. 長文読解】

全体の正答率は約65%だった。全体的に内容理解に関する問題は正答率が高かったが、一部の文法・表現問題では正答率が低かった。問(2)の名詞と動詞が同じ形の語の選択問題では、**mind**と**interest**の正答率が低かった。問(5)の日本語なしの整序英作文では文脈をヒントにしながら正確な知識も求められたが、全体の正答率は40%に届かなかった。to不定詞の意味上の主語、

間接疑問文、some や ones などの知識や理解が必要であった。問(7)は( 9 )のみ正答率が低く、相手に依頼する表現 I'd like you～や正解選択肢の Why not?が理解できていなかった可能性がある。問(8)の「正解をすべて選ぶ」という設問においては対応できている受験生が多かった。

## 【2. 長文読解】

全体の正答率は約 65%だった。すべて内容理解に関する問題で、全体的な正答率は高かったが、問(2)や問(5)、問(6)、問(7)など、内容や状況から判断し、思考を必要とする問題において、正答率が低くなった傾向にある。(問(2)59%, 問(5)62%, 問(6)45%, 問(7)50%) 会話文が進むにつれ変化していく状況を把握しきれず、解答を急いだ誤答が散見された。

## 【3. 文法・表現】

基本的な文法・語法・表現が定着している受験生が多かった。全体の正答率は約 85%だったが、問(2)のみ正答率が低く How の誤答が多かった。

## 【4. 整序英作文】

基本的な文法・語法・表現を正しく理解・運用できていた。正答率は(1)は約 95%で、(2)は約 75%だった。(2)では be glad that と come to see が重要なポイントであった。

## 【5. 英作文】

基本的な文法・語法・構文・表現が定着しており、応用レベルにも対応できていた。正答率はどちらも約 70%で、模範解答以外の多様な解答が見られる中で、正しい表現が多く見られた。

## 【6. リスニング】

英文と設問は印刷されていないため、選択肢の先読みをしてある程度内容と質問を推測しておく必要がある。1回目の放送では英文全体を把握しながらも質問に関連する箇所を探し出し、2回目の放送では質問に対して必要な情報に絞って確認しなければならない。全体の正答率は 80%近くあったが、問(4)は正答率が低かった。global warming、environmental、issue などの表現がポイントとなっており、映画の内容理解が難しかったかもしれない。

### ■対策への助言

長文読解では、基本的な文法・語彙を定着させながら、多様なテーマの読解演習が必要となる。復習では語彙・文法などの知識や理解の確認だけでなく、英文や選択肢の精読、読解問題の分析、速読や音読練習にも取り組もう。

文法・表現問題では、基本的な文法・構造の理解・定着を目指しながら実践練習に取り組もう。定番の文法・構文以外の表現にも挑戦したり、スピーキング練習も同時に取り組もう。

リスニングでは事前に選択肢などの先読みをして類推する練習をしたり、質問に対して必要な情報を検索する練習をしよう。長文読解と同様に多様なテーマ・形式の実践練習も効果的だ。復習では放送原稿を使って聞き取れなかった表現、意味の分からない箇所、読解できなかった箇所などを確認しましょう。何度も反復リスニングや音読練習をすることによって長文読解やスピーキングなどとの相乗効果が期待できる。

■令和 6 年度 高等学校入試(A 日程)

社 会

## 令和 6 (2024) 年度 高等学校入学試験 A 日程 分析・社会科

### ■全体講評

地理的分野・歴史的分野・公民的分野から各 2 題ずつ、計 6 題出題しました。ただし、近年の傾向通り、大学入学共通テストの導入や、高等学校の新課程への移行を踏まえ、思考問題や資料問題を多く出題しました。全体的に基礎的な理解を直接問うような問題で正答率が高かったものの、複数の基礎的知識を組み合わせたか、定番の形とは異なる問い方をしたりする問題では正答率が落ちる傾向にありました。

### ■出題趣旨・講評

問	分野	出題趣旨・講評
1	地理的分野 (世界地理)	世界地理・日本地理に関する基礎的理解を問いました。単純に知識を問う問題や、資料活用の問題については全般的に正答率が高かったです。一方、知識を組み合わせて考える問題、文章で選ぶ問題や、やや細かめの問題になると正答率が急落する傾向にありました。
2	地理的分野 (日本地理)	
3	歴史的分野 (古代～近世)	古代から現代にかけての歴史の基礎的理解を問いました。年代整序問題や地図問題などの正答率が例年以上に良かったです。地理的分野同様、単純な知識問題は正答率が高いものの、通常と異なる視点からの問題や、知識を組み合わせる問題では正答率が急落しました。
4	歴史的分野 (近世～現代)	
5	公民的分野	昨今のウクライナ情勢などを踏まえ、国際関係を意識しつつ公民的分野全般の基礎的理解を問いました。大学入学共通テストを意識して読み取り問題なども出題しましたが、正答率が良かったです。一方、他の分野と同様、知識を組み合わせる問題で正答率が急落しました。
6	公民的分野	

### ■対策への助言

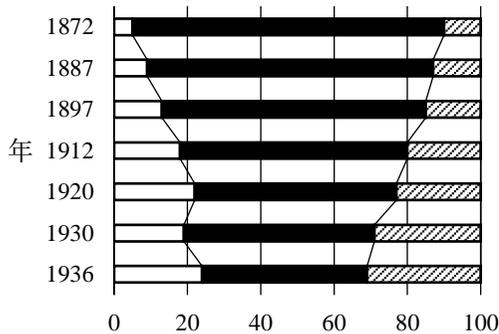
- 単なる用語暗記にとどまらず、地理的・歴史的・公民的事象の理解に努めましょう。そうすることで、定番とは異なる出題や、基礎的な知識を組み合わせて解く問題、あるいは思考力が求められる問題にも対応しやすくなるかと思います。
- 学校の授業での学習を大事にしてください。特に資料・史料を活用する機会、思考・判断・表現する取り組みにも積極的に取り組んでください。
- 時事的な内容にも関心を持ち、ニュースや新聞などに積極的に触れるようにしましょう。
- 全体的に問題量は多いので、解ける問題から確実に解いていきましょう。

## ■問題分析

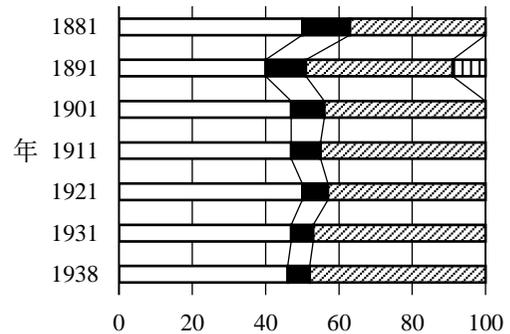
[問題] 第4問 (5) (紙面の都合上, レイアウトやフォントを調整しています)

下線部(c)に関連して, 次のグラフ I・IIは, 日本またはイギリスの産業別人口構成の割合(単位:%)の推移を示したものです。グラフ中の a・b は, 第1次産業または第2次産業のいずれかを示します。グラフ I・IIのどちらが日本を示すかと, a・bのどちらが第1次産業を示すかが正しく組み合わされているものを, 下のア～エから1つ選び, 記号で答えなさい。

グラフ I



グラフ II



□ a    ■ b    ▨ 第3次産業    ▩ その他 (失業者及び分類不能の人口)

(『明治以降本邦主要経済統計』をもとに作成)

- ア 日本：I - 第1次産業：a                      イ 日本：I - 第1次産業：b  
 ウ 日本：II - 第1次産業：a                      エ 日本：II - 第1次産業：b

## [解答・解説]

正解はイ (日本：グラフ I・第1次産業：b) です。

まずこのグラフは, 1870年代(明治初期)～1930年代(昭和前期)における日本とイギリスの産業構造の変化を示しています。この時代の日本では, 特に日清戦争後の下関条約(1895年)で獲得した賠償金を資本とし, 重工業化が進んでいました。下線部の「社会の変化」も, 工業化を背景にした都市化・大衆化と捉えることができます。工業化が進めば, 第2次産業従事者の割合も増えると考えられます。ここでグラフを見て, aとbを比較すると, グラフ Iのaだけが, 大幅に割合を増やしていることがわかります。以上よりグラフ Iが「日本」のもので, aが「第2次産業」, すなわち「第1次産業」はbとなります。

なお, グラフ IIは「イギリス」であり, 1880年代の時点で, 第2次産業従事者の割合が日本よりも圧倒的に高かったこととなります。これは産業革命を遂げたイギリスが, 19世紀には「世界の工場」と呼ばれるようになっていたことを反映しています。

## [解答・学習上のアドバイス]

初見の資料に向き合い, 手掛かりを見つけ, 知識理解を活用して思考し, 解答を導き出す問題は, 昨今の教育改革の影響もあり, 増えています。本問では用語暗記力ではなく, 明治～昭和期の歴史に対する理解と, 産業の分類や工業化に関する概念を活用し, 分析する力を求めま

した。学校の授業でも学習内容を活用して考える機会があると思いますので、大切にしてください。

また、自学自習やテストなどでこういった問題に出会ったときは、一度自分で取り組み、そして後で振り返りましょう。自分の持っていた理解は正確だったのか（教科書などを振り返ってみましょう）、問題からの確に手がかりをつかめていたか、また、自分の思考の道筋は正しかったか、あるいはどのように考えるべきだったのか。そしてもう一度順を追って解いてみましょう。思考力を高めるにはこういった方法もひとつです。

■令和 6 年度 高等学校入試(A 日程)

理 科

### ■全体講評

理科の4分野(化学, 地学, 物理, 生物)のバランスを考えて, 各分野から1題ずつ出題しました。分野毎の配点は均等にし, 偏りがないよう配慮しています。

基本的な知識を問う問題と、実験の理解や計算力・発展的思考力を問う問題を各分野に配置しました。基本的な知識を問う問題は、全般的に得点率が高くなっていましたが、針葉樹や雲の名称など、一般的な入試対策問題集で大きく取り上げられない部分で、正答率が低かったようです。問題集や過去問をやるだけでなく、教科書や問題集の解説、参考書説明などをしっかり読み込み、網羅的な体系的な知識を身につけていって欲しいと思います。

本年度は、4分野それぞれの平均点は大差が無く、どの科目もまんべんなく出来ていました。特に本年度は、例年よりも化学・物理・地学で計算量を多くしました。しかし、時間内にほとんどの受験生が解き終わっており、この点では問題内容を素早く理解し、煩雑な計算を苦手にしなない練習ができていると感じました。

### ■出題趣旨・講評

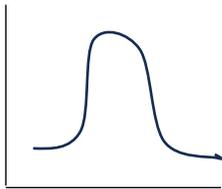
問題番号	項目	設問
1	生態系 【生物】	炭素の循環や分解者、植物の生存戦略など、生態系について幅広く出題しました。正答率は比較的高かったのですが(7)針葉樹の葉の季節変化や、花が咲くかどうかなど、実際の生物に関する知識問題の正答率が低くなりました。普段から身近な生物について興味を持って観察して欲しいと思います。
2	中和反応 【化学】	酸とアルカリの中和反応について、実験時の注意点や化学反応式、性質やイオンの個数について問いました。基本的な問いの正答率は非常に高く、よく出来ていました。しかし、化学反応式やイオンの個数を問う問題は正答率が低くなっていました。反応の前後で何が起こっているか、深く考えて演習に取り組んでもらいたいです。
3	雲の発生と前線 【地学】	問題後半部で、空気塊の上昇とそれに伴う膨張と温度低下から雲の発生のプロセスを計算で考えさせる内容の問題を出題しました。湿度計算や露点を求める問題はよくできていましたが、露点以下に下がったときに出てくる水滴の質量計算や、 $1\text{ m}^3$ に含まれる水滴の質量から空気膨張率を求める問題に苦戦していたようです。
4	音の伝わり方 【物理】	音の速さに関する問題を出題しました。例年以上に計算量が多かったにもかかわらず、よく出来ていたという印象です。誘導形式で問題を作成しましたが、各テーマの締めくくりの問題の正答率が低かったため、単純な計算力だけでなく、出題者の意向を理解する思考力をつけて欲しいと思います。

## ■問題分析

### 1 【生物分野】

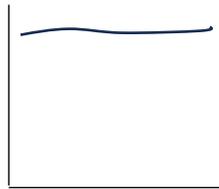
(7) 図2のあ～うは、ある年の1月から12月の様々な地域の森林における光合成を行っている葉の量の変化を示したものである。下の各問いに答えなさい。

図2



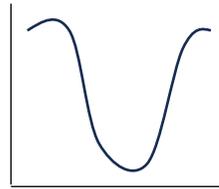
1 4 7 10 月

あ



1 4 7 10 月

い



1 4 7 10 月

う

- a) スギ林における葉の量の変化を表したものを、図2のあ～うから1つ選び、記号で答えなさい。
- b) スギは、サクラやクヌギと異なる特徴をいくつか持ちます。どのような特徴ですか。次のア～クから正しいものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 維管束をもたない

イ 種子をつくらない

ウ 花をもたない

エ 胚珠をもたない

オ 果実をつくらない

カ 根がひげ根である

キ 子房をもたない

ク 根・茎・葉の区別が明確でない

(7)

a) スギは常緑の針葉樹です。そのため、季節によって光合成する葉の量は大きく変動しません。 正解・・・い

b) 裸子植物の特徴を聞く問題です。被子植物・裸子植物・シダ植物・コケ植物の各植物の特徴が整理できていなければ、完解は難しかったかもしれません。

ア、ク・・・コケ植物の特徴

イ、ウ、エ・・・シダ植物、コケ植物の特徴

カ・・・被子植物 単子葉類の特徴

裸子植物の特徴は「胚珠がむきだし」であること。胚珠自体は存在し、花も咲きます。

#### ■対策への助言

「理科用語を暗記している」、「公式に当てはめて答えを導ける」という学習ではなく、実験の結果データから考え方を理解した上で解答したり、リード文や説明文に書かれていることを正確に読み取り、そこから解答を導くような学習を心がけて下さい。高得点のためには理科の学習内容をより正確、確実に把握する必要があるかと思えます。